

編集後記

今号には、県外居住の方の玉稿二篇を掲載させていただくことが出来た。櫻井氏の研究は、毛利空桑文書など、県内でも未だ十分に利用されているとは言えない史料を駆使されたもので、また池辺氏の論稿は、文化財としての地名についての、実に丹念な作業による考察で、ともに県内に居住する私たちへの、大いなるご鞭撻と受け止めたいと思う。

また、それぞれ教えられることの多い論稿・研究ノート・史料紹介をお寄せいただいた皆様に、おかげで初めての編集の責を果たせたことにつき、厚く御礼申し上げます。

ところで、今号の編集にとりかかった頃、歴史教育の現場に居る者として、大事件が起きた。高校における「社会科」解体である。「歴史をしっかりとやれ」というツルの一声での「地歴科」独立の狙いは何か。かつて福沢諭吉が痛烈に批判した、日本の歴史に治者の興亡はあって国民の生活なし、というような歴史教育を再現させないために、真の意味で「歴史をしっかりとや」らねばならない、と思う此頃である。

(野田 秋生)

昭和六十三年三月十一日 印刷
昭和六十三年三月十五日 発行

大分県地方史 第二九五号

編集者 野田 秋生
発行者 渡 澄夫
印刷者 中尾 寿孝
印刷所 別府市中央町九一五
日の丸印刷株式会社
(電話) 〇三四一

発行所

〒八七〇一一 大分市旦ノ原七〇〇
大分大学教育学部国史研究室内

大分県地方史研究会
(振替・下関八二五二九四番)